

# 趣 意 書

入梅の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より熊本県立球磨工業高等学校の教育活動に対し、格別のご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本校伝統建築コース及び伝統建築専攻科は、全国でも類を見ない宮大工・伝統建築の担い手を育てる先進校として、長年にわたり日本の文化財建造物の修復や伝統技法の継承に邁進してまいりました。近年では、東日本大震災や熊本地震の被災神社再建等の地域貢献をはじめ、確かな技術を持った「匠」を全国へ輩出しております。

このたび本校では、アジア、そして世界へと視野を広げた新たな人材育成の一步を踏み出すこととしました。本校の木造建築技術や人材育成システムをアジア、そして世界へと発信するとともに、異文化に触れることで生徒たちに広い視野を持たせ、地域を担うグローバルな若手技術者を育成することは、今後の本校教育において極めて重要な意義を持つと確信しております。

台湾では歴史的建造物の保存や修復を担う技術者不足が深刻な課題となっており、本校の若手技術者の育成システムや高度な「手刻み」や鉦（ちょうな）を使った伝統技術に強い関心が寄せられています。

これを受け、2年前から台湾の雲林科技大学や実践大学あるいは台湾の伝統建造物保存、修復のプロフェッショナル集団である台湾文化部文化資産局の「文資傳匠工坊」の視察を受け入れ、本校からも職員が現地の大学、高校、企業等を訪問するなど国境を越えた交流がスタートしています。今後、本校では台湾の建築系の高校、大学とのMOU（連携協定）を締結し、相互訪問やオンライン授業、共同でのワークショップ等を実施してグローバルな視点を持った建築技術者を育成する計画です。

しかしながら、生徒が国境を越えて往来し、実践的な技術交流を行うためには多額の経費を要し、現在の限られた学校予算のみでは、十分な活動資金を確保することが大変厳しい状況でございます。

つきましては、出費多端な折、誠に恐縮ではございますが、本事業の趣旨にご賛同いただき、未来の伝統建築界を担う若い力のために、格別のご支援とご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年6月吉日

熊本県立球磨工業高等学校陵和会（同窓会）

会長 中村 春喜